

2022年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しの動きがみられている」と、前回と同様の判断です。前回上方修正の後、今回は据え置きとしました。
- 需要項目ごとの判断は、観光について、「引き続き厳しい状況にあり、持ち直しの動きが足踏みしている」と下方修正しました。その他の項目には、変更はありません。今回、観光を下方修正しましたが、現段階では、基調判断を変更するほどではないと考えています。
- 雇用や金融面については、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、12月、前年を幾分下回りました。食料品は、全体として底堅い動きを維持しましたが、店舗によっては巣ごもり需要に一服感も窺われました。衣料品は、中旬以降の気温の低下で冬物衣料を中心に、低水準ながら持ち直しの動きがみられました。大規模店舗では、引き続き来店客数、売上ともに回復の動きがみられたところです。もっとも、足もとでは感染の急拡大により、遠方からの来店客を中心に客数が大きく減少し、売上にも影響がみられています。また、家電販売は、一部で年末セールによる押し上げがみられたものの、家電需要全般への一巡感から、全体としては増勢が鈍化しています。
- 新車登録台数は、12月、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回り、4か月連続ですべての区分で前年を下回りました。もっとも、メーカーからの完成車供給は徐々に改善しており、登録台数の前年比マイナス幅は縮小

しています。自動車ディーラーでは、新型車投入の効果もあって相応に受注を獲得できており、販売地合いは堅調です。車の供給は改善してきていますが、受注台数を上回るには至っていないため、受注残はなお積み上がる傾向にあります。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、12月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。3か月連続の前年比プラスです。持ち直しの動きが引き続きみられました。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、12月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、これで22か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、12月、前年を大きく上回りました。これは、前年がGOTトラベル事業の停止に伴って宿泊客数が大幅に落ち込んだため、前月からはほぼ横這いです。引き続き自治体による需要喚起策の効果はみられましたが、一方でGOTトラベル事業の再開を意識した買い控えもあったとみられます。足もとでは感染の再拡大を受け、既存予約のキャンセルや新規予約のペースダウンがみられ始めています。旭川市内のホテル客室稼働率は、12月、前年を上回りました。ただ、こちらも前年がGOTトラベル事業の停止で落ち込んだため、前月からはほぼ横這いです。自治体の需要喚起策の効果が続いて引き続きみられました。
- 各地観光施設の入込みは、12月、旭山動物園、層雲峡が前年を大きく上回り、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、合計でも前年を大きく上回りました。こちらも前年が前述の理由で大幅に落ち込んだため、入込み客数は伸びていません。引き続き厳しい状態にあり、持ち直しの動きが足踏みしています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、12月は宗谷が前年を下回ったものの、上川、オホーツクが前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を大きく上回りました。2021年4月以降の累計では、上川が前年を上回ったものの、宗谷、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、11月は貸家が前年を大きく下回り、持家も前年を幾分下回ったものの、分譲が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を上回りました。基調としては、持家が持ち直しているほか、貸家は高めの水準で推移しています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、11月、旭川、稚内、網走が前年を上回ったものの、北見が前年を下回りました。旭川は1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、全体でも1倍超えとなりました。1倍超えは7か月連続です。新規求人数は、11月、稚内が前年を下回ったものの、旭川、北見、網走が前年を上回ったことから、4つの職業安定所の合計でも、前年を上回りました。もっとも、これは、前年の新規求人数がコロナ禍で低水準だったことが影響しており、引き続き前々年を下回っています。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、12月、前年を上回りました。12月まで34か月連続で前年を上回

っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き感染症の動向とその影響がポイントになると考えられます。感染拡大とそれへの警戒感から対面型サービス消費では下押し圧力が続くと思われる一方、財消費では供給制約の影響の緩和が見込まれますが、不確実性は高く、下振れリスクがある点には注意が必要です。具体的には、①外出自粛が広がる可能性がある中での観光、消費の動向、②各種価格の上昇が企業収益や消費マインドに与える影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上